

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700146		
法人名	医療法人 元湧会		
事業所名	グループホーム わいず		
所在地	高知県四万十市中村大橋通6丁目7-5		
自己評価作成日	平成30年11月22日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は市内にある母体法人病院内の一部を改修して運営しており、狭いスペースではあるが利用者一人ひとりの人権を尊重し、季節の行事を大切にして、家庭的な環境づくりを心掛けている。

近所の理美容店を利用したり、地区の防災訓練等に参加したり、近くの公園で花見を行うなどして、地域との交流が持てるように努めている。

母体法人運営の老人保健施設での行事に参加するなどの交流の機会を持っている。

医療連携体制も整っており、利用者が安心して暮らせるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_1_2018_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970700146-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_1_2018_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970700146-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成31年1月11日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地に位置し、母体法人病院内に併設されている。病院とは行き来ができて、職員との同行受診や、一人週2、3回のリハビリテーションのための通院に便利で、利用者の状態に変化があった際にも医師や看護師にすぐ対応してもらえ、利用者と家族の安心感につながっている。

職員は、利用者笑顔で過ごしてもらいたいと、一人ひとりと会話を交わしながら、言葉遣いや声のトーンに気を配ったケアを日々実践している。居間では職員と利用者や、利用者同士が楽しく話し合う声が聞かれて、温かい雰囲気を感じられる。

就任4ヶ月目の管理者は、新たな気付きと経験豊富な職員の意見を大切にしながら、身体拘束廃止委員会の活用、運営推進会議を活かした取り組みなど、利用者一人ひとりに提供できる良質なケアを模索している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、職員の意識付けのための心構えなどを事業所内に掲示している。	開設時作成した理念を居間と職員のロッカールームに掲示し、意識づけをしている。職員は、理念に沿って作った「心構え」に従い、利用者一人ひとりを尊重し、笑顔で過ごせるケアを実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に利用者と一緒に回覧板を届けたり、近くの理美容店を利用して顔馴染みの関係を作っている。地区の防災訓練に職員、利用者と参加して、交流の機会を持つように努めている。事業所便りは隣接する病院内にも掲示し、情報発信をしている。	町内会に加入し、地域の防災訓練に利用者も参加している。利用者がカットしてもらっている近所の美容院とは、事業所行事の際に差し入れをしてくれる関係ができています。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民や、隣接する母体法人病院の患者、家族等から認知症高齢者への対応の仕方、事業所への入所等の相談があり、対応している。	/	/
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況や運営について報告している。改善のアドバイスをもらい、出来る事はすぐに対応して、サービスの向上に努めている。	区長からは地域の情報提供を受け、行政からはアドバイスを受けている。全家族に案内をし、協議結果も全員に報告している。家族の参加が少ないとの意見があり、家族会に提案することになっている。	具体的な検討議題を提供したり、参加者を増やすなど、外部からの幅広い意見と協力が得られる工夫をして、サービス向上につながることを期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員に運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握してもらうとともに、日頃から何かあれば相談するようにしている。	介護保険についてなど、市職員とは何でも相談できる関係が築かれている。事業所内を見学してもらったことで、事業所の状況をより分かりやすく伝えることができるようになった。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、身体拘束廃止委員会を設置し、メンバーを中心に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は、夜間のみとしている。	管理者、介護主任、職員2名のメンバーで身体拘束廃止委員会を立ち上げている。管理者は職員に身体拘束に関するアンケートを取り、それをもとにした勉強会を行って、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で、虐待が見過ごされないように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持つことができていない。研修会に参加するなどして、職員が学ぶ機会を持つようにしていきたい。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約の際には十分な説明を行い、利用者や家族の不安や疑問には、丁寧に対応するように心掛けている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会時などに聞くようにしている。家族参加の行事の際には、家族だけでの話し合いの場を設け、そこで出た意見を運営に活かしている。	家族会は年2回事業所行事に合わせて開催し、7、8家族の参加で、家族のみの話し合いの時間も設けられている。利用者からは「モーニングを食べに行きたい」との意見があり、実現について検討している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時や業務中に、その都度気が付いたことなど意見が言える雰囲気づくりを心掛けている。職員の意見に耳を傾け、実践できるように努めている。	職員間での意見交換が活発で、管理者には個別に相談するなどの関係が築けている。尿パットを両面テープで布パンツに固定して利用しやすくするなど、提案されたことは皆で検討して、実践されている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休や年休を計画的に組み込むことで、気持ちにゆとりが持てるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は外部研修に行く機会がなく、母体法人内での勉強会のみ参加となっている。研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者と職員が市のグループホーム連絡会に参加し、テーマに沿って勉強や情報交換をしたり、助言を得るようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事業所見学をもらい、話し合う場を持つように努めている。本人が不安に思うことや要望を聞き、安心して過ごしてもらえるようにしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から本人のこれまでの状況や、生活スタイル、要望、不安をしっかりと聞き、出来る限り対応することで信頼関係が築けるよう努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービス内容について担当ケアマネージャーや相談員から情報を得るとともに、本人や家族の意向に沿うよう支援の方針を検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と過ごす時間を大切に、家事や野菜作り等を一緒に行う中で、人生の先輩方から教わる姿勢を忘れないようにしている。協力を得た際には、必ず利用者に感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	何かあればその都度家族に報告し、意見をもらっている。面会時には必ず声を掛け、利用者の状況を伝えるようにしている。		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	行きつけの美容室等は、家族の付き添いで引き続き利用している。親類、友人の面会時には、居室でゆっくり過ごせるように配慮している。	利用者が大切にしてきた場所や馴染みの人等は、新たに把握したこともフェイスシートに加筆され、職員間で共有して支援に取り組んでいる。知り合いの面会時には、空調等にも配慮して、再訪してもらえる環境づくりにも努めている。	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	職員は、利用者同士の関係を把握し、コミュニケーションを図るきっかけ作りや、トラブルを招かないような関係調整を行っている。		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	利用が終了しても、これまでの関係を大切に、経過を見守るようにしている。他施設に移る際には、詳しく情報提供するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者との日々の関わりを大切に、日常の会話や行動などから思いなどを把握して、得た情報は全職員で共有し、ケアに活かしていくようにしている。	日々の関わりで会話することを心がけ、表情、仕草、行動からも利用者の思いや意向の把握に努めている。把握した情報は連絡ノート、個人記録に記録し、申し送り時にも伝えて、職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所時に本人、家族、それまで利用していたサービス担当者から生活歴などの情報を収集するとともに、入所後も本人や家族などとの関わりの中で新しい情報の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時に、本人の状態を共有するようにしている。フローシートや介護記録の情報も共有し、ケアに活かすようにしている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族、本人の希望を聞き、複数の職員と課題の分析を行って、ケアプランを作成している。担当職員は毎月、ケアマネジャーは3ヶ月毎にモニタリングを行い、ケアの見直しにつなげている。	介護計画の見直しは6ヶ月に一度、状態変化があったときには随時行っている。利用者の希望や家族の意向、担当職員のモニタリング結果を踏まえ、ケアマネジャー、担当職員、その日の勤務職員で話し合い、ケアプランを作成している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った介護日誌の記録を心掛け、職員の気づきや工夫も記載して職員間で共有し、ケアの実践やケアプランの見直しにつなげている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人病院と併設しているメリットを活かし、本人、家族の要望に柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの理美容店やスーパーを利用している。母体法人から車いす対応の車を借りて外出支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向で母体法人病院をかかりつけ医としており、定期受診や緊急性があるときなどの利便性も高く、安心感がある。他医療機関受診の際は家族対応としているが、対応できない場合は職員が同行している。他科受診の際は情報の提供も行っている	多くの利用者が母体法人病院をかかりつけ医としており、職員が同行して受診している。家族が同行受診する医療機関には文書で情報提供し、回答文書は職員間で申し送りをし、個人記録で情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する母体法人病院の看護師に利用者の体調報告や相談ができ、適切な受診や看護が受けられる体制が整っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には医療機関に情報提供を行い、入院後は病院関係者と情報交換や相談する機会を持ち、病状の把握や退院時期などについて話し合っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針を入所時に本人、家族に説明し、同意を得るようにしている。母体法人病院との連携で支援体制も整っており、本人、家族の安心につながっている。重篤となった場合には、改めて家族の意向を確認し、主治医等と方針を共有しながら終末期が迎えられるように支援している。	入所時に看取りの取扱いについて利用者、家族に説明し、重度化の場合にはかかりつけ医と話し合いをしながら、終末期支援をしている。母体法人病院の医師、看護師の協力も得られ、体制は整っている。終末期になると、隣接の母体法人病院への入院希望が大半で、看取り実績は1件となっている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設する協力病院の支援体制が整っており、日頃から助言をもらっている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設する協力病院と合同の防災訓練に加え、年1回事業所単独で避難訓練の実施をしている。	併設の母体法人病院と合同で、火災訓練と地震訓練を毎年1回ずつ実施し、利用者も参加している。事業所単独の夜間想定避難訓練は、年1回消防署の協力も得て実施している。飲料水、食料等は3日分を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心、プライバシーを損ねない声掛けや対応について、全職員に周知徹底できるように努めている。	職員全員でトイレ誘導時の声のかけ方や、話しかけの声のトーン等に気を付け、トイレのカーテンは必ず閉める等、話し合いをしながら人格や自尊心に配慮した支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や、関わりを持つ中で利用者が思いを表出できるように心掛けている。意思表示の少ない利用者に対しても、少ない声に耳を傾け、表情等も見逃さず、本人の思いを把握できるように努めている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちに合わせた支援を行っている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて馴染みの美容室に行ったり、自分の好みの洋服を選んでもらえるように支援している		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けなど、利用者が出来ることを手伝ってもらっている。メニュー考案時に何を食いたいかな聞いたり、一緒に食事をする中で、味付けや好みなども聞いている。行事の際にも職員手作りの料理を準備し、楽しんでもらっている。	メニューは利用者の希望を聞き、食事当番の職員が決めて、野菜のささがき、お茶パック詰め、ランチョンマット準備等利用者は出来ることに参加している。また、ミキサー食にしたり、食事の席の工夫など、利用者一人ひとりが食事を楽しめるように配慮している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事の形態を工夫したり、量を調整している。月1回の血液検査の結果により、主治医から指導を受けている。水分摂取量の少ない利用者には、1日の摂取量をチェックし、確保できるように努めている		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアを行っている。できるところは自分でしてもらい、不十分な部分を手助けして、清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛け誘導したり、仕草、行動を見ながら、トイレでの排泄ができるように支援している。日中夜間など、必要に応じパットの選択をしている。	利用者全員が布パンツとパット使用で生活している。入所時紙パンツを使用していた利用者の排泄間隔や排泄の気配を把握し、トイレ誘導することにより布パンツにできた事例もある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時にコップ1杯の白湯を飲んでもらったり、朝食時には乳酸菌飲料やヨーグルトの提供をしている。コーヒーや紅茶には、オリゴ糖を使用している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	何番目に入浴したいか等聞き、希望に沿えるようにしている。長風呂を好む利用者には、ゆっくり時間が取れるように配慮している。	一番風呂がいい、ゆっくり入りたい等の個々の希望や、冬至の柚子風呂など入浴を楽しめる支援をしている。最低週3回の入浴を基本として、嫌がる利用者でも、時間を置いたり、職員が代わって声掛けするなどして、週2回は入浴できるように支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に応じて休息してもらったり、日中の活動を多くするなどして安眠につなげるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の処方の内容については、「お薬内容帳」で全職員が確認できるようにしている。変更があれば、申し送り時に情報共有している。状態に変化があれば、主治医に報告している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな家事、得意なこと、興味のあることなど、利用者の状況にあった役割を担ってもらったり、毎日のレクリエーションなどを通じて楽しく過ごせるように努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に職員と一緒に散歩に出掛けたり、揃って外食に行く機会も作っている。年間行事の中には、家族の協力を得ての外出も含まれている。	紫陽花見物、桜の花見、市民祭見物、外食等行事として全員で出かける機会をつくり、日常的には近所に回覧板を届けに行ったりしているが、利用者一人ひとりの希望に沿っているとはいえない。	利用者の外出希望を把握し、日常的に出かける機会を増やして、その人らしく暮らし続けられる支援を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の小遣いは預かっており、理髪店利用時や買い物の際には、財布を渡して自分で支払いをするように支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話を掛けることができるように対応している。携帯電話を所持する利用者は、居室で使用している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行き、季節に応じた飾りつけや花を飾ることで、狭い空間ではあるが、和やかな雰囲気になるよう工夫している。	玄関には季節の花が飾られ、昼間ほとんどの利用者が過ごす共有空間には、利用者の書初めやぬり絵のカレンダーなどが飾られ、テレビを置く位置にも配慮した、清潔感のあるゆったりした空間になっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなど、利用者が各々好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は利用者の馴染みのある品物や家具を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるような空間になっている。	ベッドは備え付けだが、居室では利用者が過ごしやすく配置を工夫している。家族に協力を依頼して位牌や使い慣れた筆筒などが持ち込まれ、自分で塗ったぬり絵カレンダーが飾られたり、利用者が自分らしく暮らせる居室にしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、職員手作りのネームプレートを設置している。廊下やトイレ浴室等、必要な場所には手すりを設置し、安全かつその人に合った生活ができるように工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない